



宮城県気仙沼市の北東端に位置する唐桑町西舞根にある九九鳴き浜。乾いた砂を踏むと「くっくっ」と音が鳴ることからこの名称がつけられ、県の指定文化財にも登録されています。ここで8月、学生向けに2泊3日の体験型研修が実施され、Civic Force「夢を応援プロジェクト」の奨学生も参加しました

被災した子どもたちの「今」

「家や家族、友人などたくさん大切なモノ・人をなくしたけれど、震災をきっかけに人の優しさや生きていくことの厳しさを知り、物事に感謝の気持ちを持つようになった」―先日、東日本大震災で被災した高校生・大学生からこんなメッセージが届きました。シビックフォースが、宮城、福島、岩手3県の学生を奨学金制度とサポートプログラムで支援する「夢を応援プロジェクト」の奨学生たちから寄せられた作文の一部です。

2011年3月11日の東日本大震災は、地震とそれに起因する津波により、死者・行方不明者1万8000人以上におよぶ甚大な被害をもたらしました。あのとき、子どもを亡くした親がいるように、親や親戚、友人など大切な人を失った子どもたちがいます。厚生労働省によれば、震災で両親または片親を亡くした震災遺児・孤児の数は、1723人（2012年）にのぼります。

家庭環境の変化だけでなく、なじみの校舎が壊れたままだったりグラウンドが仮設住宅として利用されるなど、子どもたちは学習環境の変化にも対応しなければなりません。特に福島第一原子力発電所事故の

影響を受ける福島県の一部の地域では、多くの子どもたちが避難を余儀なくされています。地域コミュニティの核ともいえる学校の復興や子どもたちの心のケアは、被災地域全体の復興と合わせて考えなければならぬ大きな課題です。

震災から3年半。今月のマンスリーレポートでは、「あの日」の記憶を背負いながらも前向き、積極的に新しいことにチャレンジする東北の子どもたちの「今」をお伝えします。

シビックフォースは、8月の夏休み期間に宮城県登米市と気仙沼市で2泊3日の体験型研修のほか、岩手県や宮城県で「夢を応援プロジェクト」の奨学生向け交流会を開催しました。今号では、その様子をこ報告します。

また、8月に広島県で起きた土砂災害支援や、防災の日に合わせて愛知県で開催された合同防災訓練、福島県の移住希望者に向けて広島県で実施された「神石高原ツアー」などについてお伝えします。

震災後毎月11日にお届けしてきたマンスリーレポートは今月号で終了し、次回は12月にニューズレターとしてリニューアルリリースいたします。詳細は4ページを参照ください。

Monthly Topics

Civic Force の複数の事業の中から、注目のトピックをお知らせします。

夢を応援プロジェクト 宮城 岩手で交流会開催

東日本大震災で被災した東北の学生を、奨学金とサポートプログラムで支援する「夢を応援プロジェクト」。各地で勉強に励む奨学生同士の交流の場を提供しようと、7月と8月に東北各地で交流会を実施しました。



石巻市の交流会に参加した高校生たち

7月20日には、岩手県宮古市で、8月8日、9日には、宮城県石巻市と気仙沼市でそれぞれ実施され、高校生、

大学生合わせて計12人が参加。交流会では、趣味や将来の夢などを互いに紹介するとともに、「人生でやりたい100のリストづくり」に挑戦したほか、「夢を応援基金」の創設者である株式会社ローソンの人事担当者が、就職活動に対するアドバイスをを行いました。

参加した奨学生は「参加者同士、悩みを共有できた」「これを機に何事にもチャレンジし、自分を成長させたい」「自身に改めて向き合うことができた」などと話していました。



奨学生同士の交流だけでなく、企業の人事担当者による就職活動のアドバイスの機会も

広島県で福島からの移住希望者向けツアーを開催

シビックフォースの東日本大震災支援「NPOパートナー協働事業」の一環で、8月22日、福島県の原発避難者な



国の登録有形文化財に指定されている帝釈峡(たいしやくきょう)内の神龍橋を渡るツアー参加者

どを対象とする「神石高原ツアー」が開催されました。主催は、福島の被災者に対し、広島県への集団避難と移転先でのコミュニティ維持再生を支援するNPO法人「Nina(ニーナ) 神石高原」。

今回は、広島県から2人が参加。神石高原への理解を深めてもらうことを目的に、神石高原町の観光スポットや病院、役場、学校などを巡りながら、神石高原で暮らす魅力やまちおこしの取り組みについて紹介しました。

参加者の一人は「仮設住宅の供与期間延長を前に、広島では長期的に住める新しい居所を探す人が増えているが、広島は遠い。でも今回の視察で移住への気持ちが高まった。周囲にも、受け入れ先の一つとして紹介したい」と話していました。

広島土砂災害支援 安佐北区に高圧洗浄機を



8月20日に広島県広島市北部を襲った土砂災害は、死者・行方不明者70人以上にのぼる甚大な被害となりました。これを受け、シビックフォースは、募金活動を開始するとともに、広島市安佐北区に清掃作業で使用される高圧洗浄機2台を貸与。また、安佐北区、安佐南区で泥かきや足湯ボランティアの活動を展開中のパートナー団体「被災地NGO協働センター」をサポートしています。

災害時の連携に備えて 愛知県の防災訓練に参加

「防災の日」の9月1日以前に、シビックフォースは8月31日、災害時の連携自治体の一つである愛知県で実施された愛知県と碧南市との合同津波・地震防災訓練に参加しました。

「まずは自助から！ つなげよう深めよう地域の絆」をスローガンに行われた訓練には、県や市、自衛隊、自主防災会など108の機関や碧南市民などが参加。地震が起きた際に身の安全を守るための「シェイクアウト訓練」のほか、救助者のトリアージ(緊急度判定)、救助者の捜索、ヘリからの吊り上げ救助、倒壊家屋からの救出、救援物資の輸送・受け入れの訓練などが展開されました。



被災地 NGO 協働センターの泥かきボランティア



「シェイクアウト訓練」の様子

Civic Forceの活動は、
多くの企業やNPO、行政
などの皆様に支えられ
ています。
パートナーからの
旬のメッセージを
お届けします。

特別企画「東北の今を見つめる体験型研修」

「夢を応援プロジェクト」では、8月、これまで協働してきた東北のNPOとともに、奨学生向けの「夏休み特別企画『東北の『今』を見つめる体験型研修』を行いました。8月17〜19日に宮城県登米市で実施された「くりこま高原自然学校プログラム」では、福島県の放射線量の高い地域の子どもたちの一時保養施設である「手のひらに太陽の家」を拠点に活動。川や山で子どもたちと一緒に遊び、保護者や施設のスタッフとも交流を深めました。

また、8月20日から3日間に行われた「NPO法人森は海の恋人」のプログラムでは、宮城県気仙沼市で、牡蠣の養殖や自然環境保全の活動に取り組む人々との交流を通じて、海と森のつながりについて知る濃密な時間を過ごしました。

参加した奨学生の声をお届けします。



海のなかの生き物を観察
(宮城県気仙沼市)

「視野が大きく広がった」

今回、震災復興として人の役に立ちたいと思って参加しましたが、太陽の家で会った子どもたちは「生きる力」で溢れ、「復興の芽」は力強く成長していると実感しました。

森は海の恋人のプログラムでは、海の生態系から森と海の密接な関係、環境学、産業ビジネスや科学まで幅広い知識に触れ、視野が大きく広がりました。

私も復興を担う一人として周りに力を与えられる存在になりたいです。今回の経験を糧に、夢実現のためにがんばろうという気持ちを新たにしました。



今野涼太さん

国際武道大学体育学科2年
福島県出身

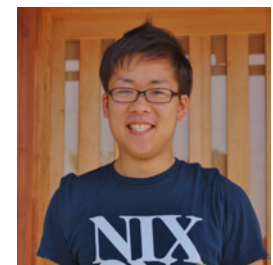


川に飛び込む子どもたち (宮城県登米市)

子どもたちと「冒険」

昨年夏休みに初めて「手のひらに太陽の家」を訪れ、今回で2回目の参加となります。

研修初日、太陽の家の佐々木豊志代表から「冒険教育」について教わりました。子どもたちと触れ合いながら、全員が小さな「冒険」をしました。高いところから川に飛び込む場面では、勇気を出して飛び込む子どもたちの姿から、彼らの新しいことに対する強い好奇心と、貪欲な姿勢を学びました。



菅原超太さん

青森県立保健大学1年
岩手県出身

【夢を応援プロジェクト】卒業生からのメッセージ

「夢を応援プロジェクト」では、2011年9月から1人あたり月額3万円の奨学金を支給しています。このたび、2014年3月をもって奨学金の受給が終了し、社会人として新たな一歩を踏み出した卒業生からメッセージが届きましたので、その一部をご紹介します。

春から幼稚園の先生に

「夢を応援基金」の奨学金のおかげで学校に通うことができ、夢だった幼稚園教諭の免許を取得できました。2014年春からは地元の幼稚園で働いていますが、たくさんの方々からのご支援で今の私があります。支援してくださった方々に感謝し、少しでも復興の役に立てよう頑張ります。

介護福祉士として

震災直後、経済的に余裕がなくなり、進学できるか悩んでいましたが、「夢を応援基金」から支援をいただけるようになり、勉強を続けることができました。4月からは地元に戻り介護福祉士として働いています。被災地の復興に貢献できるよう、社会人として頑張っていきたいです。ご支援いただいた皆様、ありがとうございました。

漁師として父の手伝いを

私は高校卒業後、漁師として海で働いています。私の父親も漁師で、震災の影響で大変な思いをしていることを知り、私も漁師として父の手伝いをすることを決意しました。感謝の気持ちを忘れず、漁師として社会に貢献し、ご支援をしてくださった皆様に少しでも恩返しをしていきたいです。

2年間、学校に通うことができました

東日本大震災で、私の家や地元のまちは大きな被害を受けました。経済状況が苦しくなるなか、進学したいと思う気持ちがとてむがままに思えた時期がありましたが、この基金のおかげで、2年間学校に通い、進学の夢を叶えることができました。今後は、社会人として、皆様に恩返しできるよう頑張ります。

マンスリーレポート終了
ニュースレター発行の
お知らせ

2011年3月11日の東日本大震災発生後、シビックフォースでは、寄付者の皆様をはじめ多くの皆様に移り変わる被災地の様子や東北の方々の復興への思い、私たちの活動について知っていただくため、毎月、マンスリーレポートを発行してきましたが、今号第42号をもって発行を終了することになりました。今までご覧いただき誠にありがとうございました。今号第42号は「マンスリーレポート」として3カ月に1度、皆様に活動報告書をお届けいたします。

「ニュースレター第1号」は年末特大号として12月に発行予定です。引き続き、皆様のご関心をお寄せいただけますよう、よろしくお願いいたします。

スリランカ大規模干ばつ
食糧と貯水タンク配布

広範囲に及ぶ干ばつの被害が出ているスリランカでは、「アジアパンフィックアライアンス」(以下、APAD)の活動の一環として、シビックフォースのパートナーNGO「CHA (Consortium of Humanitarian Agencies)」が、8月上旬に緊急支援の声明を発表しました。

これを受け、APADは緊急対応資金から3万ドルの支援を決定。食糧不足に対応するため、スリランカ南部のハンパントタ県を含む3県で支援を開始。1500世帯を対象に米、砂糖、豆、魚、茶の葉、大豆の加工品などの食糧を配布したほか、大型貯水タンクや家庭用のバケツを届けました。





スマホで簡単募金
アプリ配布中

月々の携帯電話料金の支払いと一緒に寄付できる「かざして募金」(ソフトバンクモバイル) i-OSアプリ配布中。合わせて登録団体に総額150万円を寄付する「ハートラップピングプロジェクト」が9月30日まで実施されています。

詳細は左記のとおり。

アプリの使い方

- ①スマートフォンから「かざして募金」のアプリをダウンロード 
 - ②アプリを起動し、シビックフォースのロゴ画像にかざす 
 - ③寄付金額の単位は100円～10,000円。設定金額から選択し、確認ボタンをクリック。
- ↓
- 寄付完了!**

1日1回1クリック

1日1回1クリックするだけで社会貢献につながります。

- PSCクリック募金
<http://www.psc-inc.co.jp/clickdonation/index.html>
- ユナイテッドビープル基金
<http://www.clickbokin.ekokoro.jp/139.html>
- 「goodo (グッドウ)」
<http://bit.ly/17Xr7N3>

1日33円からできること

次の大規模災害に向け、平時から備えておくためマンサリースポーターとしてともに備えてください。詳しくはHIdで。
<http://www.clickbokin.ekokoro.jp/139.html>



東日本大震災支援の寄付金執行状況

東日本大震災に関する寄付金について、2014年8月末日時点で約13.25億円(うち2012年3月より寄付額の15%を運営費に充当)のご寄付をいただいています。

下記8月末現在の執行済み金額をご報告申し上げます。金額は暫定・速報値です。寄付金は、理事会の承認に基づいて執行しています。

なお、2013年度の決算と事業報告書はホームページで公開しています。

<http://www.civic-force.org/news/pdf/AR2013p1-20.pdf>

緊急・復旧支援活動	5億5,652万円
緊急支援物資の調達・配送	2億3,310万円
生活改善のための風呂設置	1,879万円
離島へのカーフェリー就航	1,998万円
NPOパートナー協働事業1・2期	1億6,158万円
多目的・機能型拠点提供	7,213万円
ボランティア受け入れ用テント	3,688万円
復興支援調査事業	1,404万円
復興支援活動	4億6,369万円
基金事業	9,584万円
企業ボランティア	260万円
NPOパートナー協働事業3期～	1億7,646万円
命をつなぐ翼P*(中長期復興支援)	1億1,696万円
観光再生P(中長期復興支援)	3,492万円
緑の環P(中長期復興支援)	2,172万円
共環まちづくりP(中長期復興支援)	1,518万円
現地事業を支える経費*	1億1,813万円
合計	11億3,834万円

*P=プロジェクト*広報・資金調達に関連する費用を含む
※上記の他、ローソンと個人・団体寄付者の皆さまと協力して実施中の夢を応援プロジェクトでは8億2,747万円のご寄付をお預かりし、奨学金とサポートプログラムに4億5,963万円を執行済みです。

※1万円以下は四捨五入